

街ににぎわいを創出

「やるベシヨップ」がオープン

鷹巣町商工会青年部が中心となって進めている「やるベシヨップ」が、旧秋北バス鷹巣営業所内に8月5日にオープンしました。この事業は、県商工会連合会の「中心市街地活性化及び振興事業」を活用し、旧営業所の内部を改装して5店分の店舗スペースを確保、低家賃で貸し出し商店街のにぎわい創出と中心市街地の空洞化防止などを目指そうとしたもので、着物の生地リサイクル、雑貨・アクセサリー、有機肥料展示、観賞用植物販売の計4店舗が事業を始めました。この日は、イベントとしてシヨップ裏に設置された露店で生ビールやフリーマーケットも出店、多くの人手ににぎわいました。



4店舗が入居したシヨップ内

熱戦繰り広げ交流深める

学童野球・ミニバスケットボール大会

第48回地区対抗学童野球大会とミニバスケットボール大会が8月9日から3日間、森吉球場・森吉総合スポーツセンターで行われ、白熱した戦いが繰り広げられました。

野球の部は48年も続いている大会とあって、親のほとんどは同大会に参加経験があり「息子の姿をみて当時の記憶がよみがえる」と昔を思い出す一幕も。大会が開催された当時は、グローブも満足に買えない世帯が大半をしめ、持っている人から借りたりしながらプレーをしていたそうです。

野球の部では小又川イギリス(根森田・小又地区)が、バスケットの部では前田フレッシュ(阿仁前田・五味堀)が優勝しました。



白熱したミニバスケットボール大会

市民プール利用者1万人

鷹小1年 神谷ゆりさんに記念品

6月3日にオープンした市民プールの利用者が1万人を達成し、8月19日、同プールのエントランスホールで、ちょうど1万人目となった利用者に市教育委員会の三澤教育長から記念品が贈呈されました。

記念すべき節目の利用者となったのは、この日の午前中お母さんと一緒にプールを訪れた神谷ゆりさん(鷹巣小学校1年)。夏休みに入ってからよくプールを利用し、11回目の利用となったこの日が幸運の日となりました。お母さんの厚子さんは「1万人目で驚きました。娘はまだ泳げる距離は5mほどで、息継ぎの練習をしている段階ですが、これをきっかけに泳ぐことがもつと好きになってくれるといいですね」と話していました。



三澤教育長から記念品を受け取るゆりさん

森のテラスで野外コンサート

コンサートキャラバン2006

羽立の「森のテラス」で野外クラシックコンサートが開かれ、約50人の観客が自然空間でのクラシック演奏に魅了されました。

公演は世界的な指揮者の小澤征爾氏が選抜した日本の若手を代表する演奏家が集うNPO法人「コンサートキャラバンイートープ」が主催。8月13日から16日の日程で秋田と岩手で8カ所の公演を行いました。

秋田「里山、音楽、花園」の森のテラスは現在環境整備中で、自然の空間をテーマに「美しい、おいしい、たのしい」の体験型空間を目指しています。

コンサートを訪れた人たちは、田んぼと森林の大自然の中で普段なかなか聞くことのできない本物のクラシックを堪能しました。



大自然のなかで行われた野外コンサート

美しい川を次世代へ

「史上最大のつかみ取り」親子で鮎の友釣り体験

「史上最大のつかみ取りパート8」が、8月20日、水辺の楽校で行われ、親子連れなど約120人がイワナやヤマメ、ニジマスのかみ取りに挑戦しました。

このイベントは、子どもたちに自然に親しんでもらうとともに、川の大切さを認識してもらうことを目的に開催されたもので、この日放流された約1500匹の魚を全身びしょぬれになりながら捕まえていました。

また、午後からは「親子で鮎の友釣り体験」が、内陸線鉄橋下の米代川で行われ、約10組の親子が、インストラクターの手ほどきを受けながら鮎の友釣りに挑戦。その後、釣れた鮎をその場で焼いて食べるなど、自然とふれあうことができました。



全身びしょぬれになりながら魚を捕る子どもたち

沿線草刈りで景観アップ

第4回マタギスタッフ内陸線草刈

阿仁打当、中村、戸島内地区の若者で組織する「マタギスタッフ」が地元自治会の協力を得て、8月6日、内陸線沿線の草刈を行いました。

これは、秋田内陸縦貫鉄道(株)を側面からサポートしたいと「内陸線美化協力運動作業」を毎年実施しているもので、この日参加した50名は十二段トンネルから長畑地内までの約7キロの区間を強い日差しが照りつける中、汗だくになりながら自分の背丈程に伸びている雑草を手際よく刈り取って行きました。マタギスタッフの柴田会長は「内陸線を利用する人のためにも車窓からの景観を損なわないようにしたい」と話していました。



景観アップのために作業を行うマタギスタッフ